

11月の

# なんでも生活相談

衆議院選挙の結果は、日本共産党にとっては残念な結果でした。しかし、民進党が希望の党へ分裂・吸収されるという、市民と野党の共闘にとっては大変な分断策動がありましたが、これに対しても、日本共産党は一貫して共闘を守る立場を堅持、自らの小選挙区候補者を下ろすことも行って、立憲民主党の結成・躍進に貢献できたことは大きな成果でした。このことは、市民連合をはじめ、多くの方々から日本共産党への高い評価としていただいています。

今回は時間不足もあって、共闘が不十分なところが多くありましたが、今後は市民と野党の共闘をしっかり育てて行けば、与野党逆転も可能であることを今回の選挙結果が示しています。今後は、日本共産党も、市民と野党の共闘の一層の前進に合わせて、共に躍進できるよう頑張ってまいりますので、どうぞよろしくをお願いします。

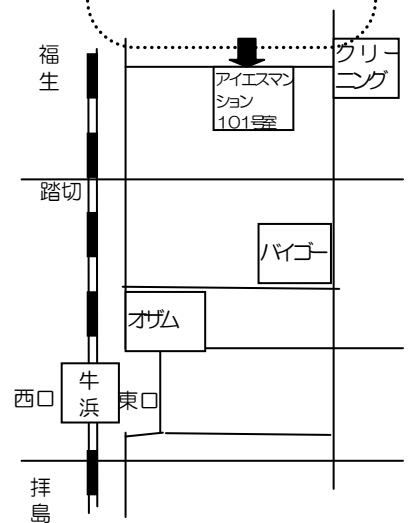
さて、11月のなんでも生活相談会のお知らせです。いろいろ、生活に困っているのに誰にも相談できずにいる方、市に相談したけどうまく進んでいないという方はいらっしゃいませんか。どうぞお気軽にご相談ください。法律上の相談にも弁護士さんと一緒に対応しています。

日本共産党 福生市議会議員  
いけだ こうぞう  
**池田 公三**

がご相談に応じます。



この日、ご都合の悪い方は  
お電話ください。日時を調整  
いたします。



日本共産党福生市委員会は池田公三さんの活動について発表しました

日時 11月7日(火) 午後7時から

場所 池田公三事務所 (駐車場あります)

福生市志茂115 アイエスマンション101号室  
TEL 042-530-0705

福生民報

発行 2017年 11月 号外  
日本共産党福生市委員会  
責任者 太田  
福生市志茂 115 101号室

こんにちは

日本共産党福生市議会議員

池田 公三です

No. 62 2017. 10. 30

事務所 志茂 115 アイエスマンション 101号

電話 042-530-0705

ホームページ

池田公三

検索

なんでも相談 第1火曜 午後7時

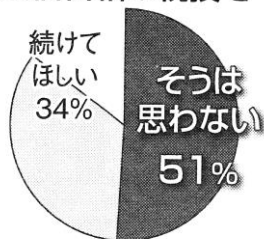


これからも

# 市民と野党の共同で 安倍暴走政治の転換を目指します

「森友・加計疑惑」隠しのため、また、民進党の混乱から市民と野党の共同が進んでいない状況を利用して「今なら勝てる」と考えた安倍首相による、党利党略解散・衆議院総選挙でした。自民党は、前回より7議席減ですが、公示前と同じ284議席（全体の約6割）を得ました。しかし、この結果は果たして民意を反映しているのでしょうか。

## 安倍首相の続投を



「朝日」世論調査17、18日

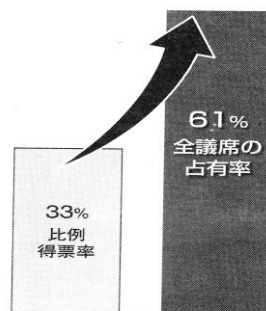
選挙最終版の世論調査では、安倍首相の続投を望まない層が51%もいました（朝日新聞 19日付）。共同通信による出口調査でも、安倍首相を「信頼していない」人が51%に上っていました。

それなのになぜ、自民党が6割もの議席を得る結果となったのでしょうか。確かに、第2自民党のような希望の党ができて、民進党が分断され、市民と野党の共闘が十分に機能しなかったこともあります。もし、民進・共産・自由・社民の4野党が共闘して総選挙を戦っていたらどうなっていたか…。

朝日新聞（24日付）の試算によると、「63選挙区で勝敗が入れ替わり、与党120勝、野党106勝となった。」としています。

もう一つの理由は小選挙区制の弊害です。自民党が得た比例得票は33%（有権者比では17%）にすぎません。それなのに全議席の6割もの議席を占有できたのは、1つの選挙区で1人しか当選しない小選挙区制の仕組みにあります。議席に結び付かない大量の「死票」を生み出し、その結果、比較第1党に得票率以上の議席を与えてしまうのです。今回の総選挙でも、自民党の小選挙区での得票率は47.8%ですが、議席は75.4%（218議席）を獲得しました。大政党有利に民意をゆがめる小選挙区制中心の選挙制度が自民党の虚構の多数を作り出しているのです。「比例代表で

自民党の比例得票率と全議席の占有率



は野党を下回り、小選挙区で『漁夫の利』を得たというのが実態」（毎日新聞 24日付）なのです。

## 衆院選党派別当選者数

2017年 10月22日投票	新議席	公示前	前回	小選挙区	比例代表
日本共産党	12	21	21	1	11
自民党	284	284	291	218	66
希望の党	50	57	—	18	32
公明党	29	34	35	8	21
立憲民主党	55	15	—	18	37
維新の会	11	14	—	3	8
社民党	2	2	2	1	1
こころ	0	0	—	0	0
その他・無所属	22	45	126	22	0
合計	465	472	475	289	176

注：解党などで消滅したり今回候補者を出さなかった政党は「その他・無所属」に含めました。小選挙区の定数は公示前から10減。公示前は欠員3で、解散当時の事実上の勢力分野を示しました。

民意を反映できない小選挙区制は改めなければなりません。そのためにも、市民と野党の本気の共闘によって、民主的な政府をつくらなければなりません。今回の選挙結果は、市民と野党の選挙共闘ができれば、多くの小選挙区で勝利できる可能性を証明しました。今回は、立憲民主党の結成が公示2日前という切迫した状況の中で、話し合いもできず、日本共産党の一方的な候補者降ろしと協力に終わってしまいました。今後、市民と野党の本気の共同が進めば明るい展望が開けるでしょう。私たちはそのために全力で頑張る決意です。戦争する国に逆戻りはごめんだ、憲法9条を守りたいと願うすべての方々と力を合わせてまいります。